

施工要領

ウェルポイント工法について

ウェルポイントと呼ばれる吸水装置を地中深く挿入し、真空の力（大気圧）を利用して地下水を吸水することにより地下水位を低下させる工法である。

ウェル1本あたりの揚水能力が小さいため、0.8m～2.0mの間隔で掘削領域外周に配置する。

揚水された地下水はヘッダパイプを通してウェルポンプに集められ、渦巻ポンプで排水される。

真空ポンプによってヘッダパイプおよびウェルポイント内の空気を排気し、これによって生ずる大気圧差（1気圧相当）を利用して揚水するため、理論上は10mの水位低下が可能となる。

しかし、実用上は配管損失、ポンプ損失などの損失、空気吸引などによる気密度の低下などがあり、5m～6m程度の水位低下量となる。

ウェルポイント工法の概要

